

巻 頭 言

精神文化学会 会長
近藤 剛

2020 年初頭以来、中華人民共和国湖北省武漢市に発端する新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大によって、私たちの世界は政治的にも経済的にも文化的にも大打撃を与えられ、否が応でも新しい生活様式に従うことを強いられている。

これまでも人類は繰り返しパンデミックを経験してきたが、その都度、悲劇的状况を転機として力強く粘り強く復活を遂げてきた。こうした歴史的経験に学ぶことは大切であるが、その手がかりを与えてくれるのが記録である。

カミュ『ペスト』でもしばしば記録（ないし記憶）の重要性が説かれているが、例えば史料的価値を持った文学作品であるボッカッチョ『デカメロン』やデフォー『ペスト』などには、当時の人々の息づかいが潜在しており、その臨場感と緊張感は私たちに教訓的な経験を共有させてくれる。

そのような意味で、私たち精神文化学会としても、今回のコロナ禍を受けて、それぞれが考え感じたことを記録に留めておくのは有益であると思われるので、そのための特集号を企画した次第である。今回は広く会員諸氏から原稿（論文、研究ノート、エッセイ）を募り、後世に残しておくべき記録の整理をそれぞれの仕方で行って頂いた。

コロナ禍に限らず、現代文明の混乱と混迷は想像力の貧困ないし欠如に起因しており、その涵養こそ人文学の、精神文化学の役割であると信じ、今後も活発な学会活動および情報発信を行っていききたい。そのために、会員諸氏のさらなるご協力を願うものである。